

## 介護保険・高齢者福祉に関するアンケート調査の集計結果

国が示した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を取り入れ、市民の高齢者福祉サービスや介護サービス等に対する利用状況、利用意向等を把握し、令和6年度(2024年度)から令和8年度(2026年度)までの「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定に向けた基礎資料とするために、アンケート調査を実施しました。

### 調査の方法と回収状況

調査名	調査対象	調査方法	回収状況	調査期間
介護保険・高齢者福祉に関するアンケート調査	介護保険の認定を受けていないか、「要支援」認定を受けている 65歳以上の方 2,000名	郵便による配布・回収	有効回答 1,093件	令和5年 (2023年) 5～6月

- ※アンケート調査結果の各設問の母数n (Numberofcaseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味します。
- ※各選択肢の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しています。このため、択一式の回答については構成比の合計が100%にならない場合があります。また、複数回答が可能な設問の場合、選択肢の構成比の合計が100%を超える場合があります。
- ※グラフ中の数字は、特に断り書きのない限りすべて構成比を意味し、単位は%です。
- ※属性別クロス集計のグラフ・集計表には、属性が無回答であったサンプルの集計結果を割愛しています。

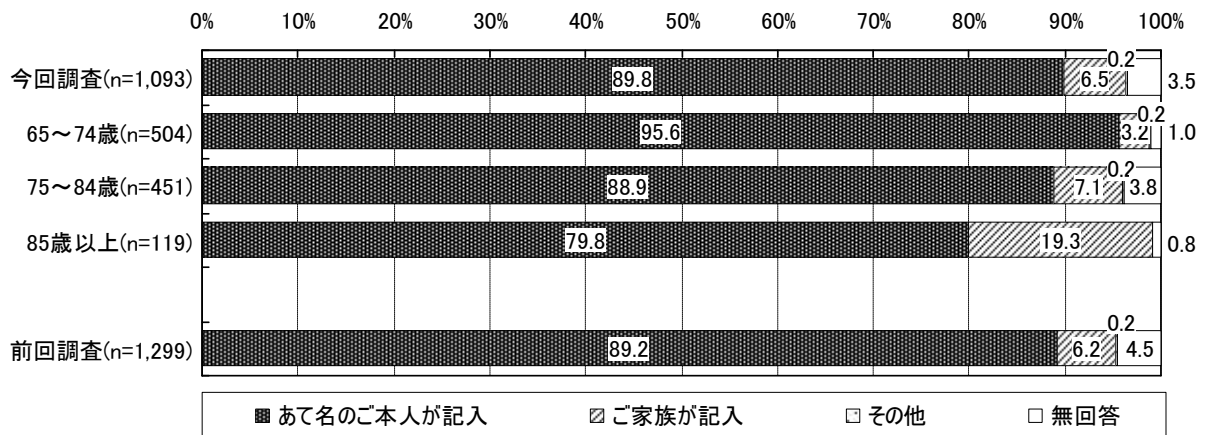
## 調査対象者の属性

○調査票への記入者は、本人が多くを占めていますが、85歳以上では家族の記入も19.3%となっています。

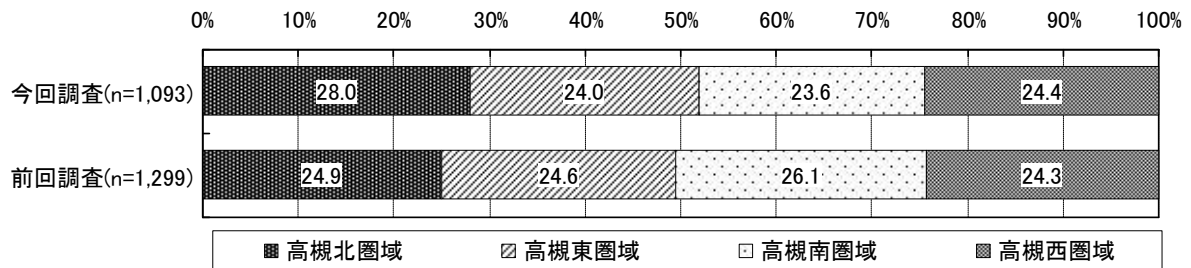
○日常生活圏域、性別、年齢については前回調査と同様の結果です。

○認定状況も前回調査と同様の結果ですが、年齢が高くなるほど要支援認定者が増え、85歳以上では34.5%となっています。

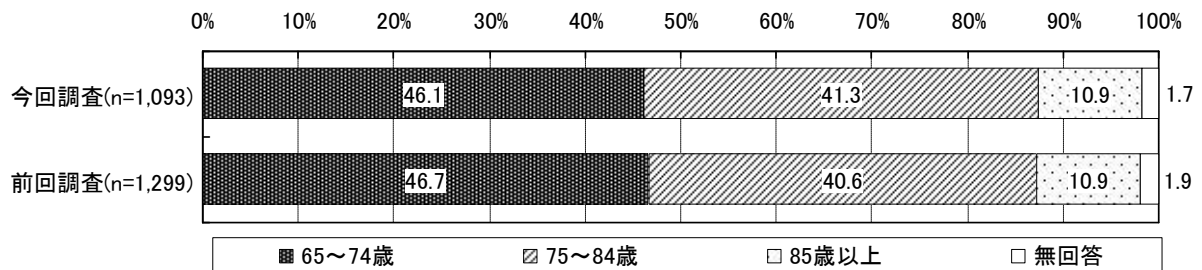
### ◆調査票を記入されたのはどなたですか



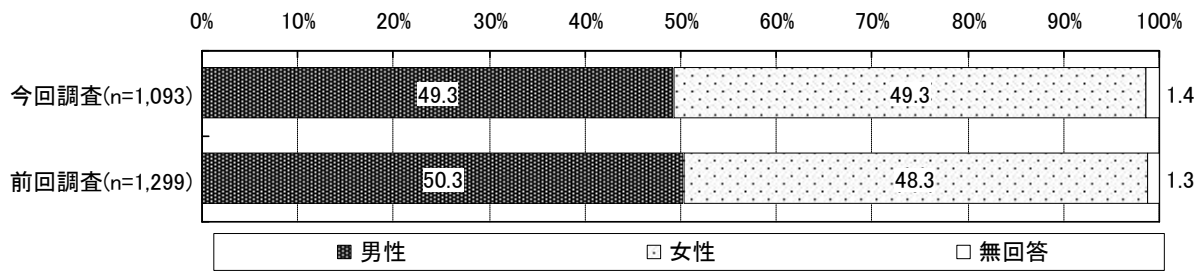
### ◆居住地（日常生活圏域）



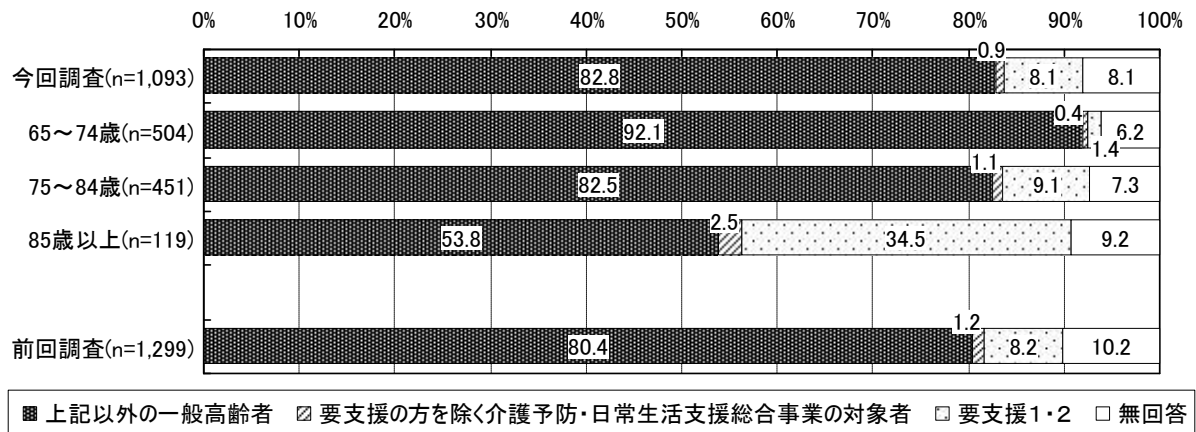
### ◆調査対象者（本人）の年齢



◆調査対象者（本人）の性別



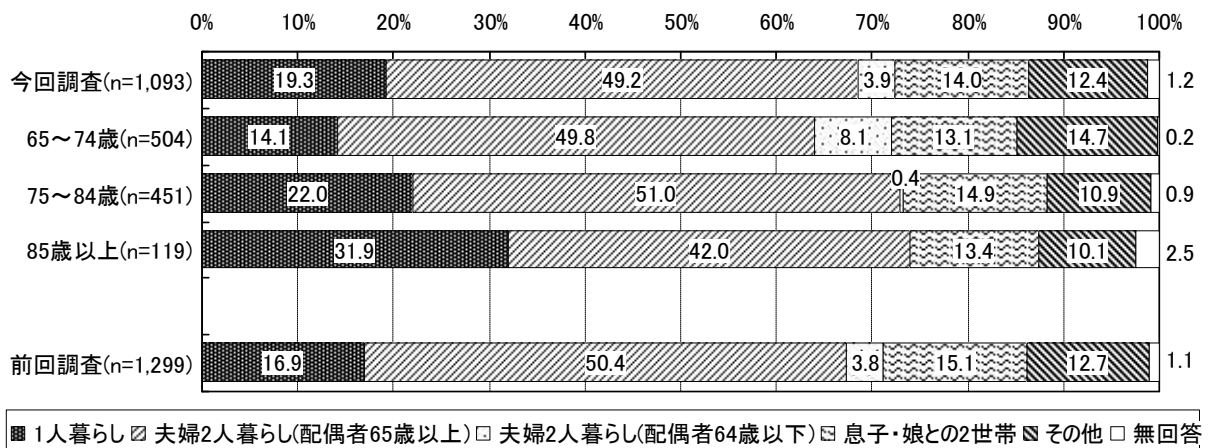
◆調査対象者（本人）の認定状況



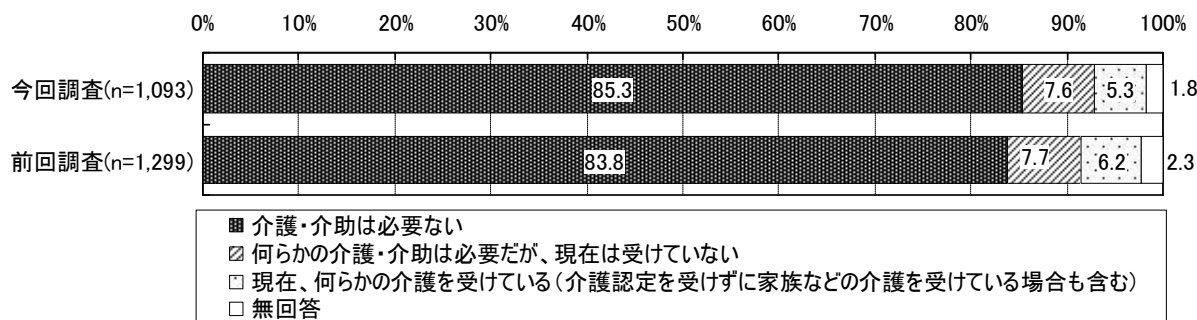
## あなたのご家族や生活状況について

- 高齢者のみで暮らす世帯が68.5%を占めています。
- 普段の生活で何らかの介護・介助が必要な人は12.9%となっています。
- 現在の暮らしの状況について「大変苦しい」「やや苦しい」と答えた人は30.6%で、前回調査より増えています。

◆家族構成をお教えてください



◆あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

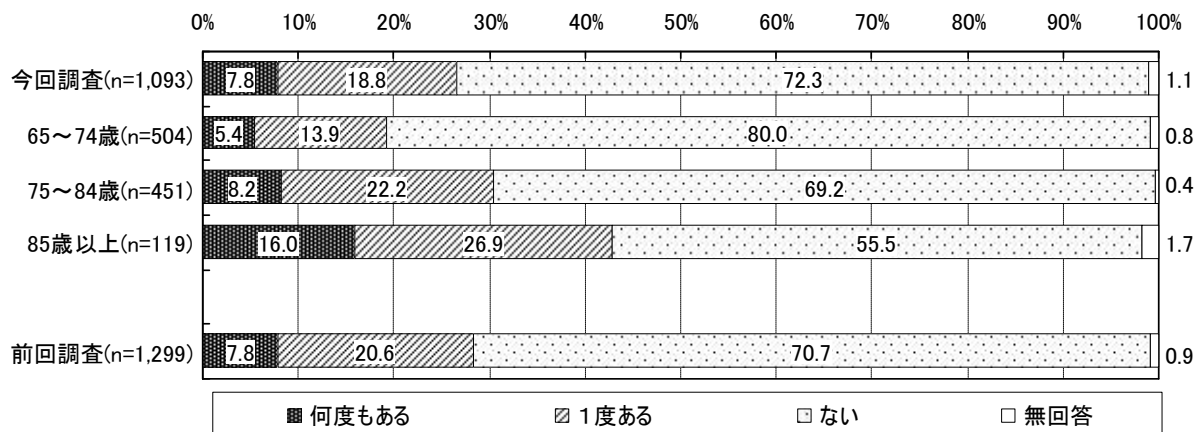


## からだを動かすことについて

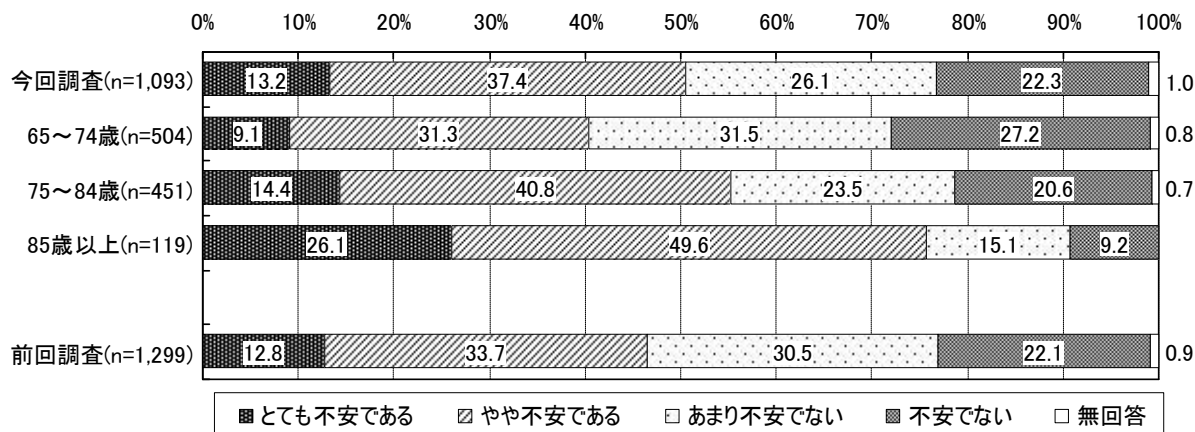
○転倒経験のある人は26.6%で前回調査より減少していますが、転倒に対する不安を持つ人は50.6%と前回調査より増えています。

○こうしたことから運動器の機能が低下しがちな高齢者に対して、その機能を維持するための取組が一層重要となります。

◆過去1年間に転んだ経験がありますか

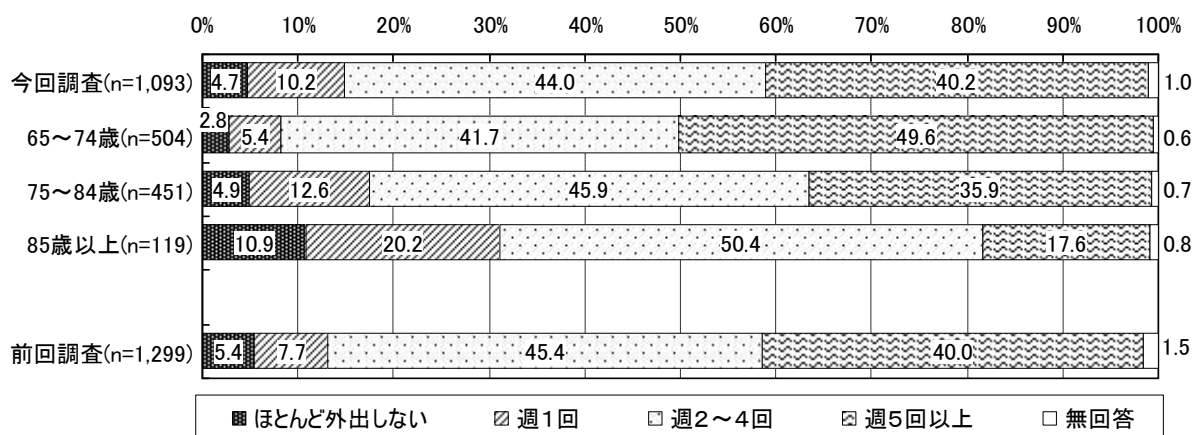


◆転倒に対する不安は大きいですか

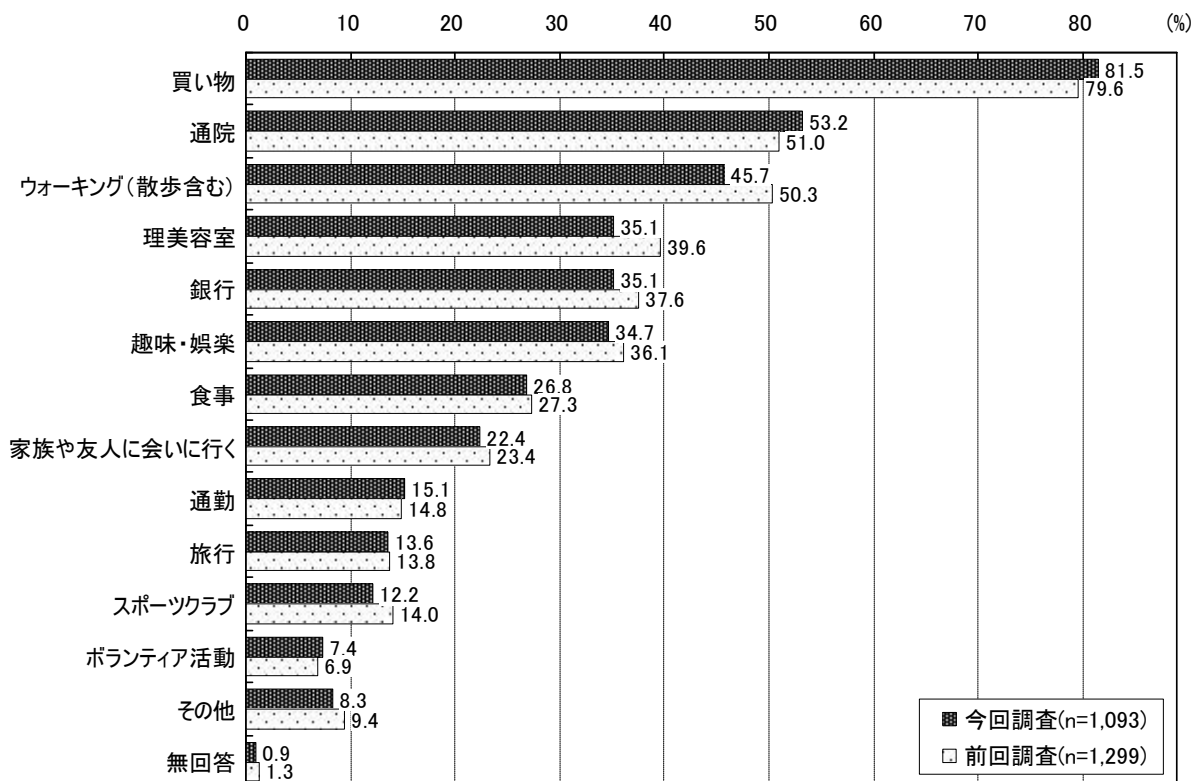


- 外出が週2～4回という人が44.0%、週5回以上という人が40.2%と、前回調査と外出頻度は変わりありません。ただし、年齢が高くなるほど外出頻度は少なくなっています。
- 外出の目的は買い物、通院、ウォーキング（散歩）の順で多くみられます。
- 昨年と比べて外出の回数が減っている人は29.6%と、前回調査と変わりありません。
- 買い物や通院の際に何らかの形で自動車を使っている人は57.0%で、このうち自分で運転する人は36.6%となっています。
- 過去1年間に外出を控えるきっかけがあったという人は62.2%で、内容別には足腰などの痛みが24.4%、病気が14.9%となっています。また、年齢別にみると、足腰などの痛みや聞こえの問題は年齢が高くなるほど増える傾向にあります。

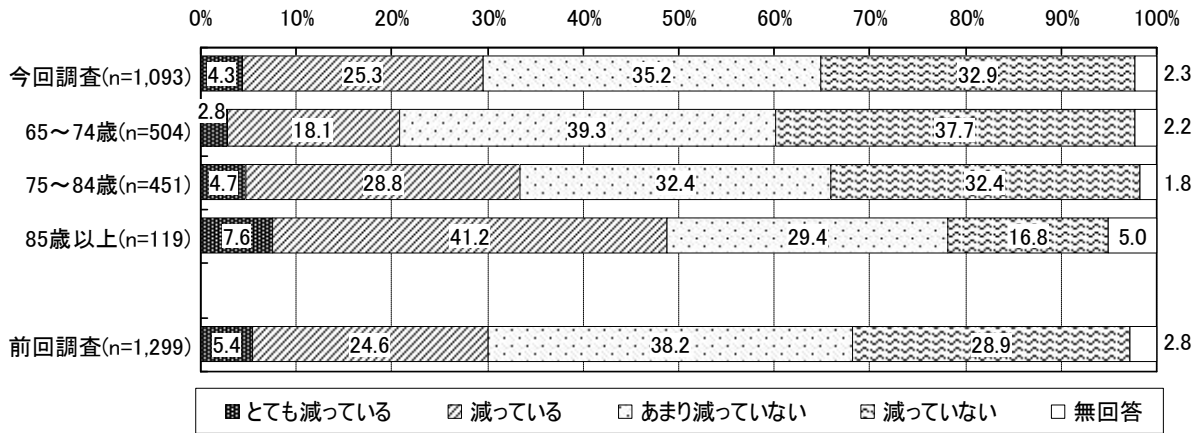
◆週に1回以上は外出していますか（新型コロナウイルスの影響がない場合）



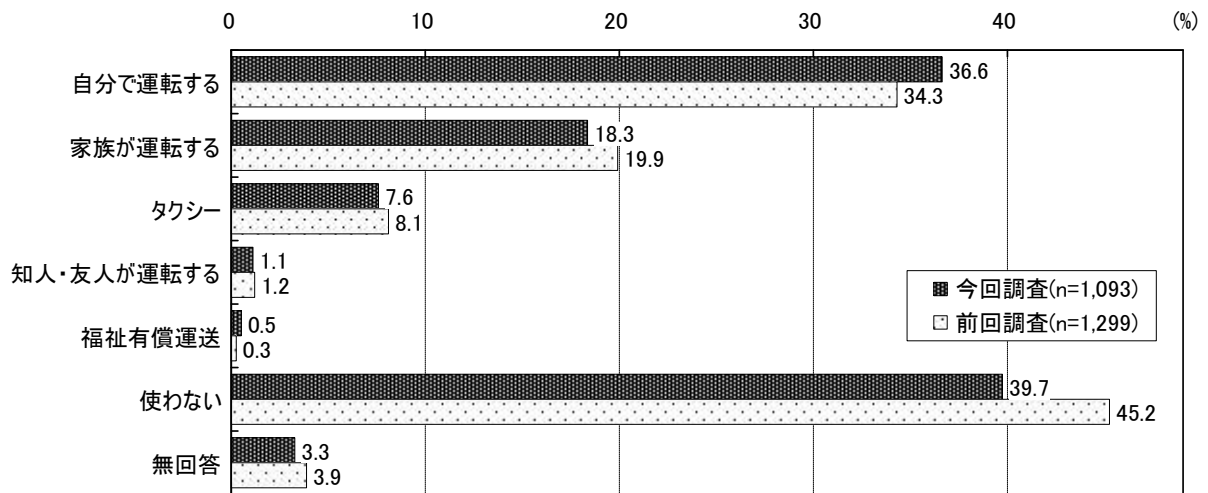
◆どのような目的で外出していますか（いくつでも、新型コロナウイルスの影響がない場合）



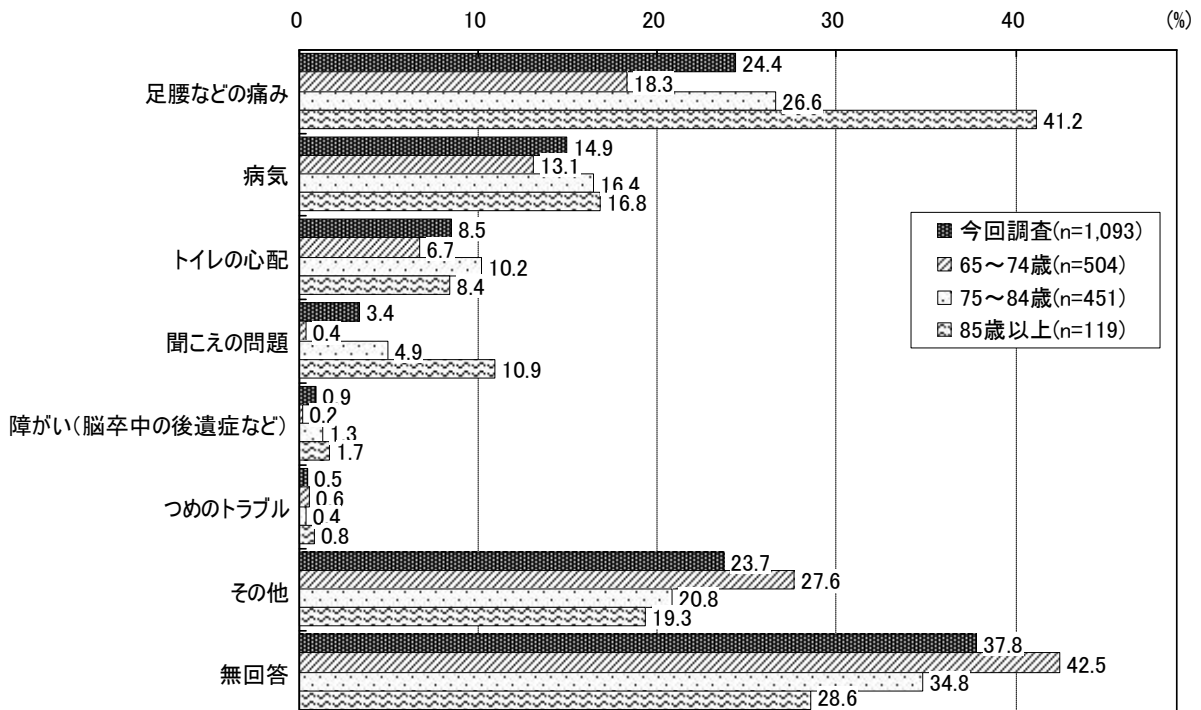
◆昨年と比べて外出の回数が減っていますか（新型コロナウイルスの影響がない場合）



◆買い物や通院の際に自動車を使っていますか(いくつでも)



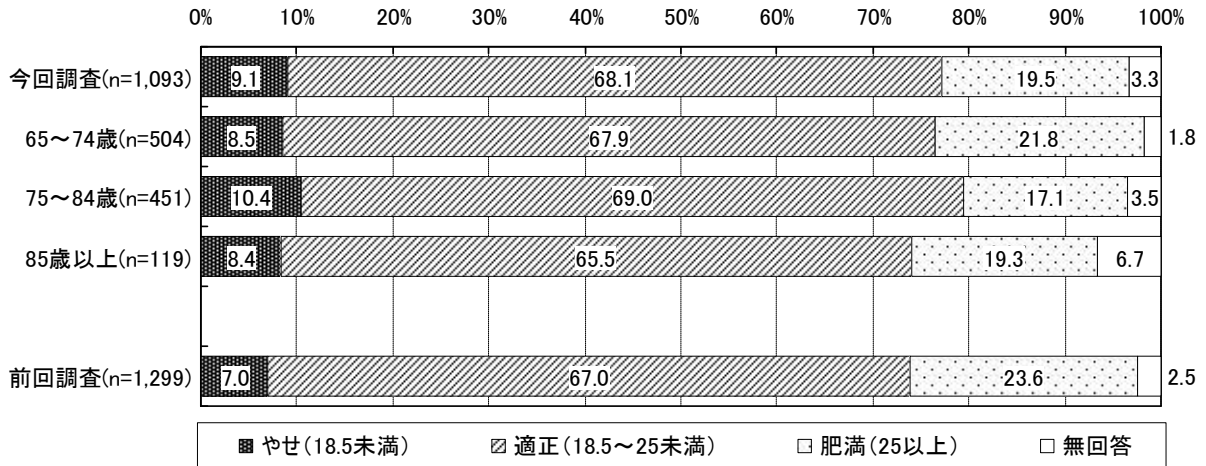
◆過去1年間に外出を控えるきっかけがありましたか(いくつでも)。



## 食べることについて

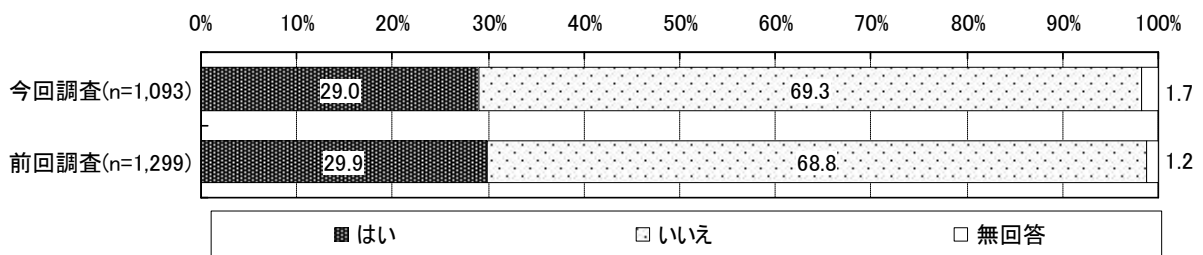
○身長と体重を尋ねてBMI（体格指数）を算出したところ、やせ状態にある人は9.1%、肥満状態にある人は19.5%を占めており、やせについては前回調査より増えています。

### ◆身長・体重《BMI》

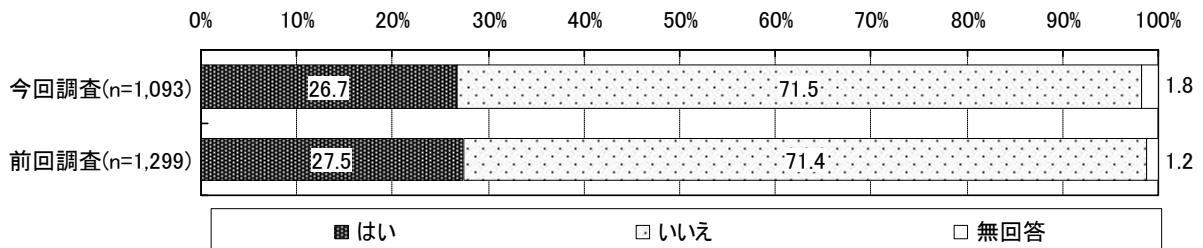


○自分の歯が20本以上ある人の割合は52.4%となっています。  
 ○口腔機能が低下していると思われる人は24.2%で、年齢が高くなるほど多くみられます。  
 ○かかりつけの歯科医の普及ともども高齢期の口腔ケアの重要性について広報・啓発を行っていく必要があります。

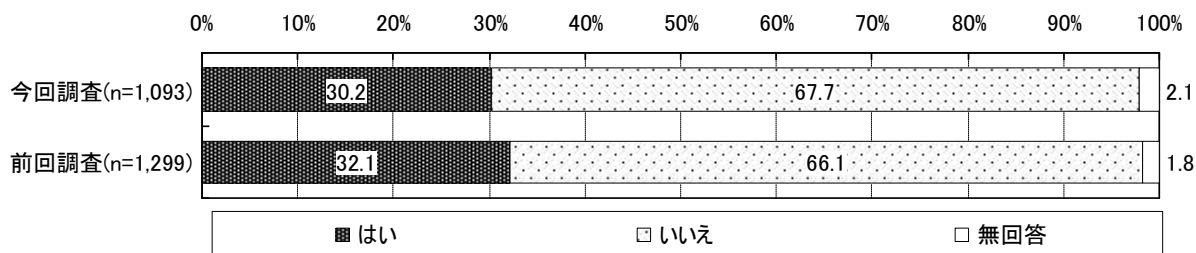
### ◆半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。



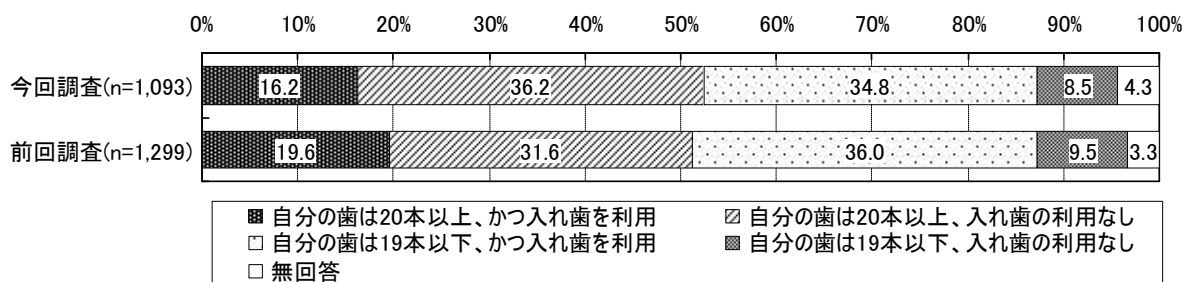
### ◆お茶や汁物等でむせることがありますか。



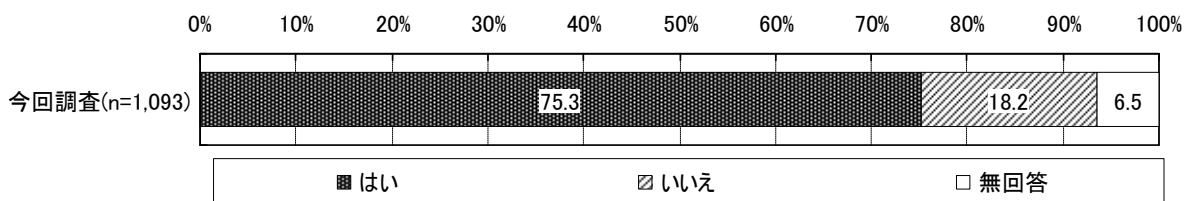
◆口の渇きが気になりますか。



◆歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。

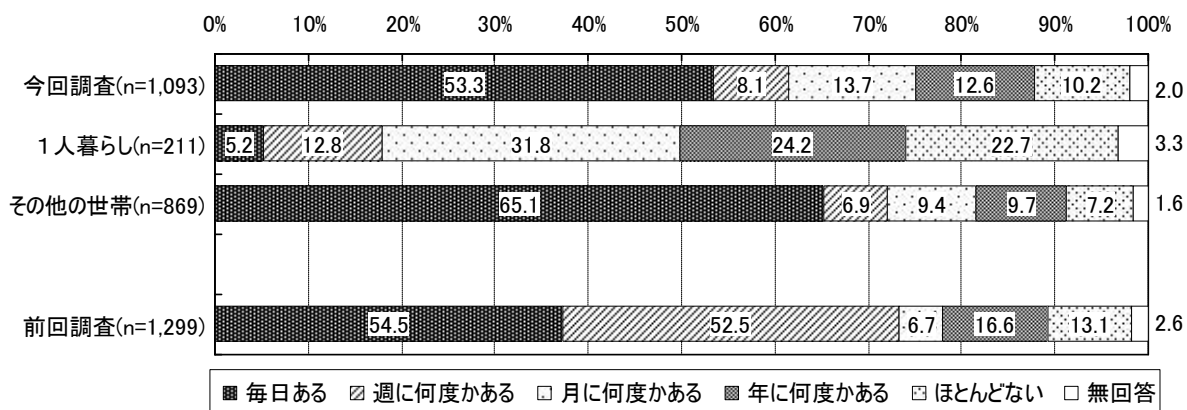


◆かみ合わせは良いですか。



○家族などと毎日食事をとっていない人は44.6%みられます。  
 ○1人暮らしの人など、「孤食」の傾向にある人の共食の機会について拡大を図っていく必要があります。

◆どなたかと食事をとる機会がありますか

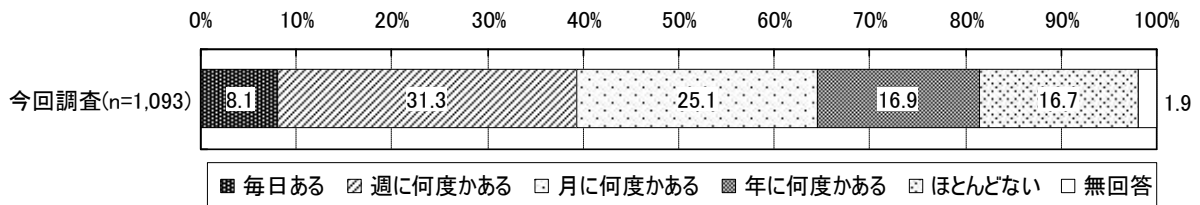




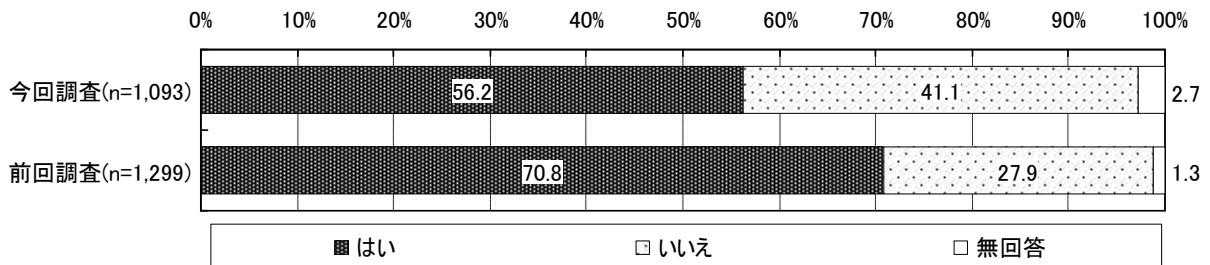
## 日常生活について

- 友人・知人と会う頻度は、週に何度かが31.3%、月に何度かが25.1%となっています。
- 若い人に自分から話しかけることがあるという人は前回調査時より減少しています。
- 趣味があると答えた人は76.8%、生きがいがあると答えた人は79.1%となっていますが、前回調査時よりやや減少しています。
- 生きがいを感じるときは、家族とともに過ごすときが66.8%と最も多く、次いで趣味などの活動をしているとき、買い物をするとき、友人とともに過ごすとき、旅行をするときの順となっています。
- 趣味活動や文化・学習・スポーツ活動、ボランティア活動、就労、様々な人々との交流など、多様な社会参加の機会を提供し、高齢者の生きがいづくりを図っていくことが重要です。

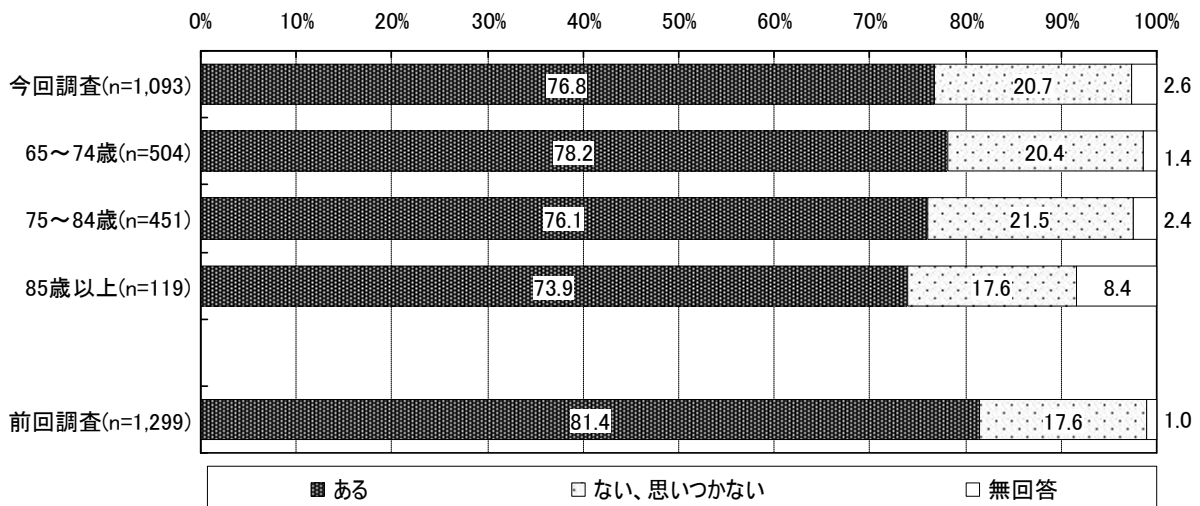
### ◆友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。



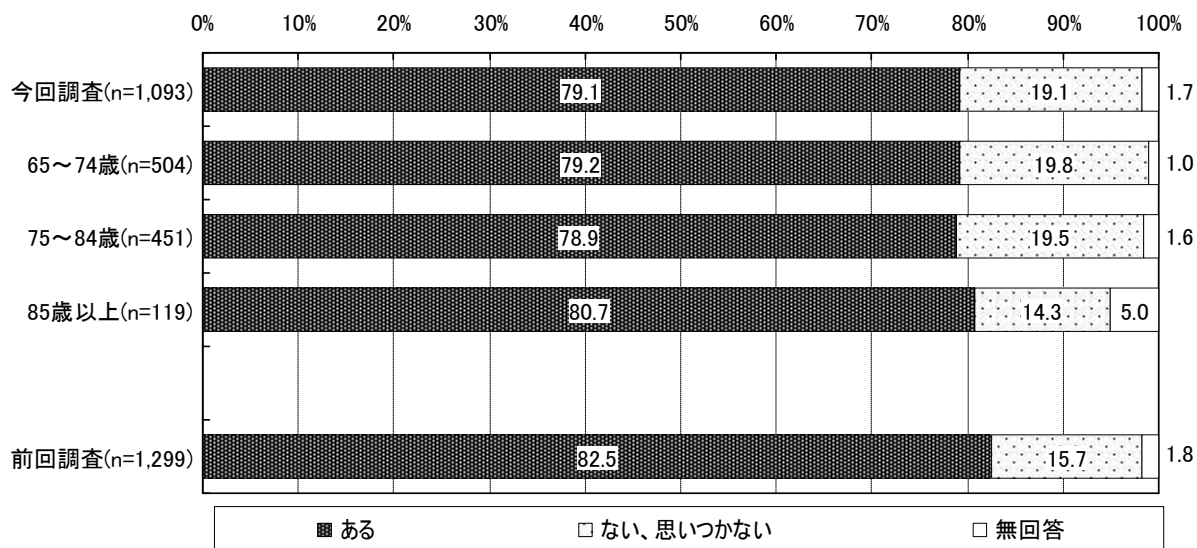
### ◆若い人に自分から話しかけることがありますか。



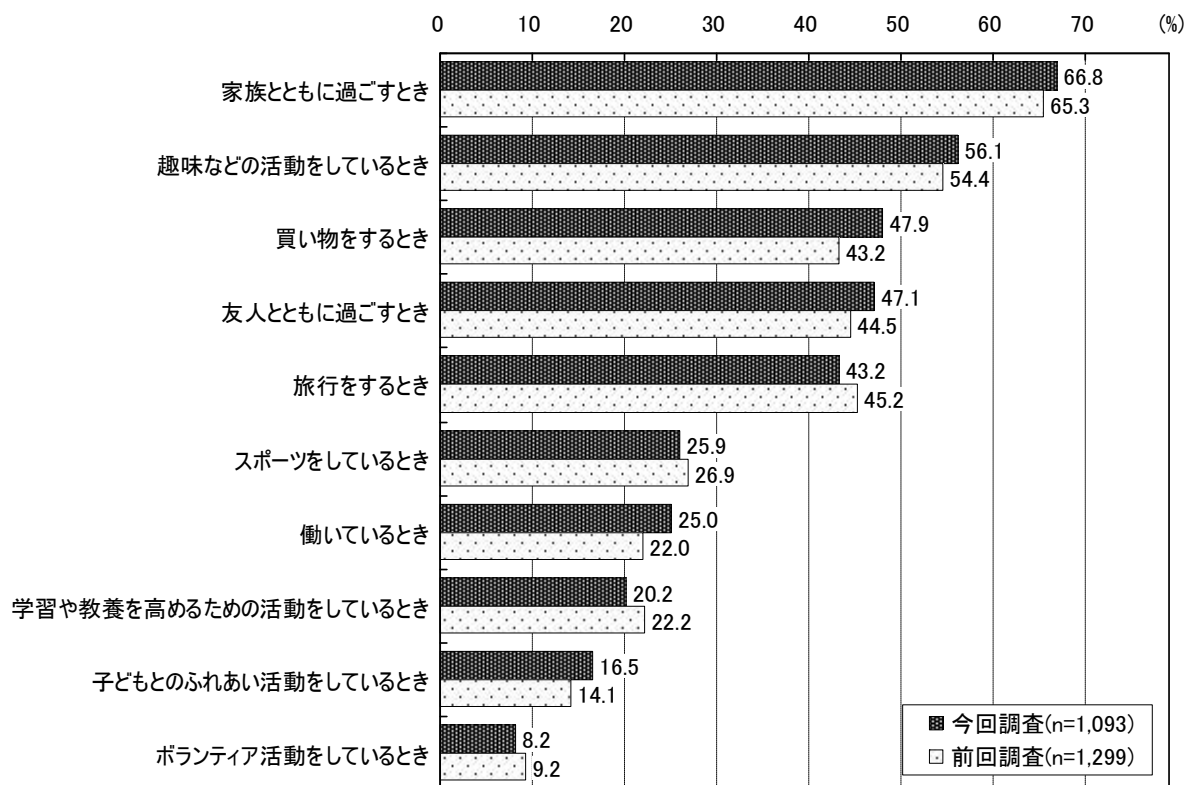
### ◆趣味はありますか



◆生きがいはありますか

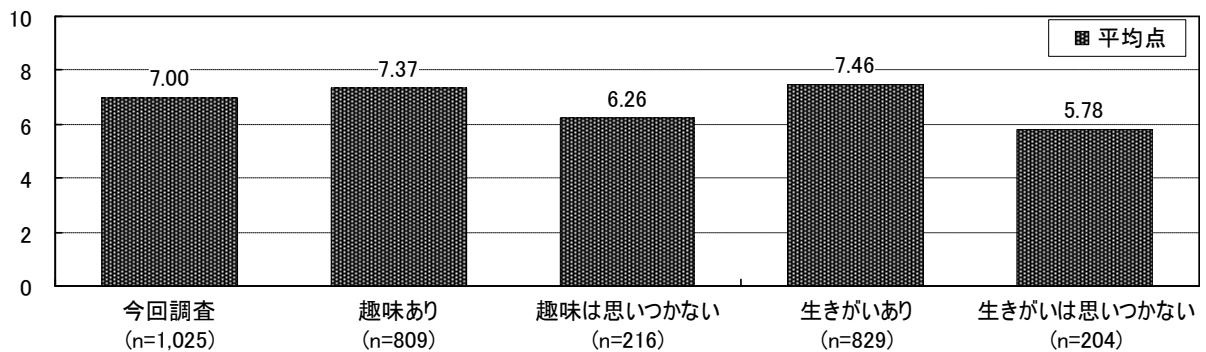
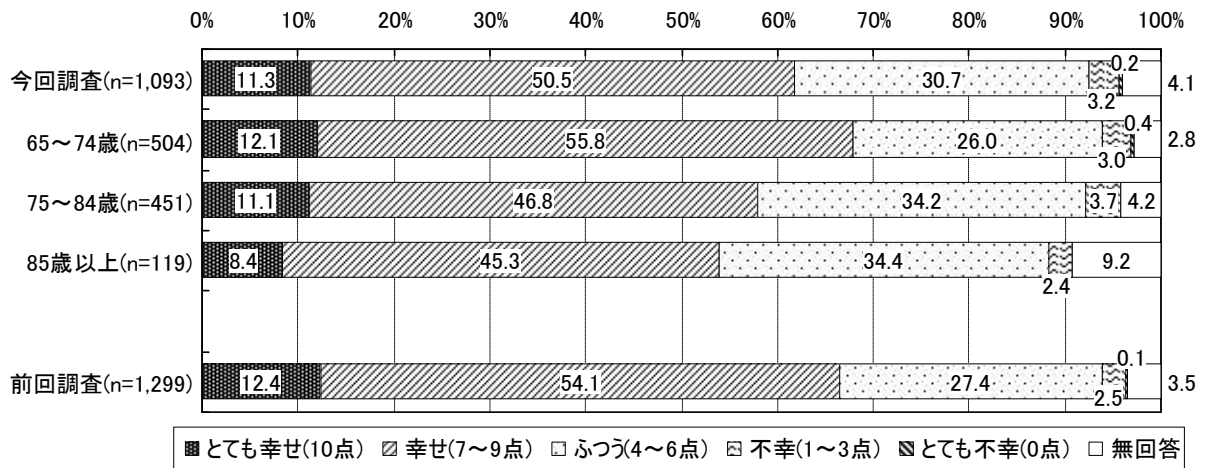


◆どのようなときに生きがいを感じますか(いくつでも) ※上位10項目



○主観的な幸福感について10点満点で何点かを尋ねたところ、平均点は7.13点となっています。また、趣味や生きがいの有無別にみると、趣味や生きがいのある人とそうではない人との間では平均点に大きな差が生じています。

◆あなたは、現在どの程度幸せですか。（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

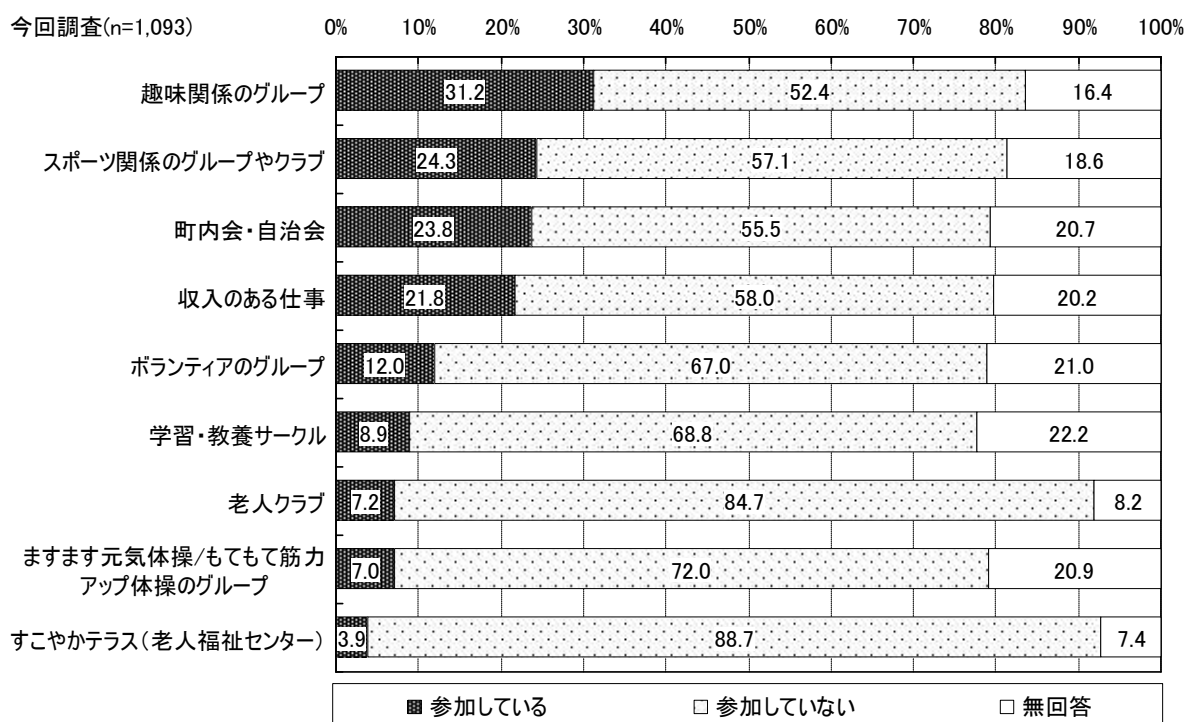


※無回答を除いたサンプルによる平均値

## 地域での活動について

○地域活動への参加状況をみると、参加したことがある活動は多い順に、趣味関係のグループ（31.2%）、スポーツ関係のグループやクラブ（24.3%）、町内会・自治会（23.8%）、収入のある仕事（21.8%）などとなっています。

◆以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

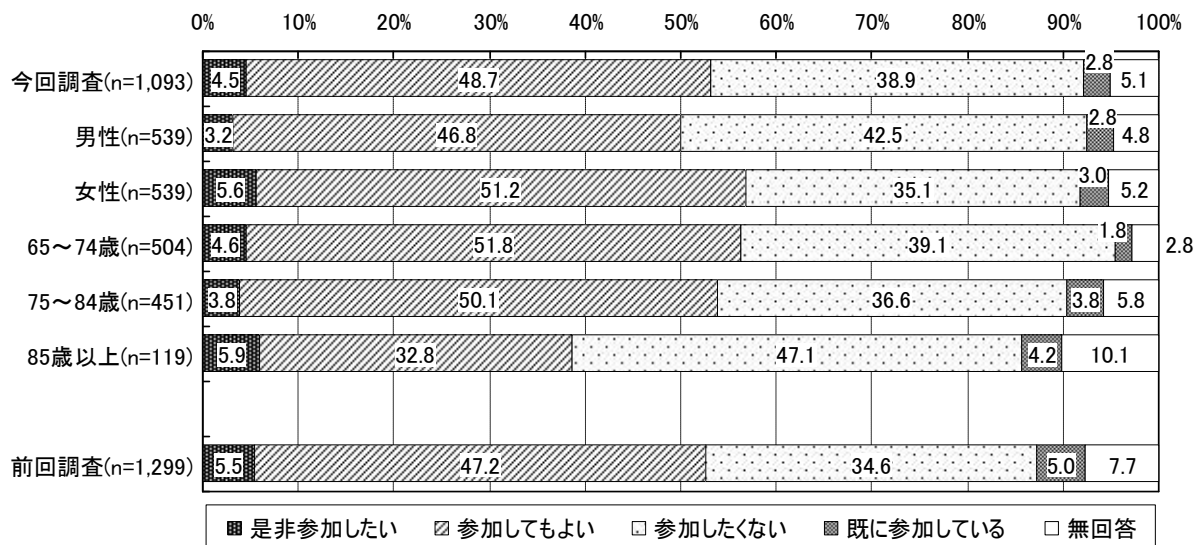


○健康づくりや趣味等のグループ活動など地域住民による活動に『参加者』として参加する意向を示す人は「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせて56.0%となっています。一方で、『お世話役』として参加意向を示す人は31.1%にとどまっており、62.5%の人は「参加したくない」と答えています。

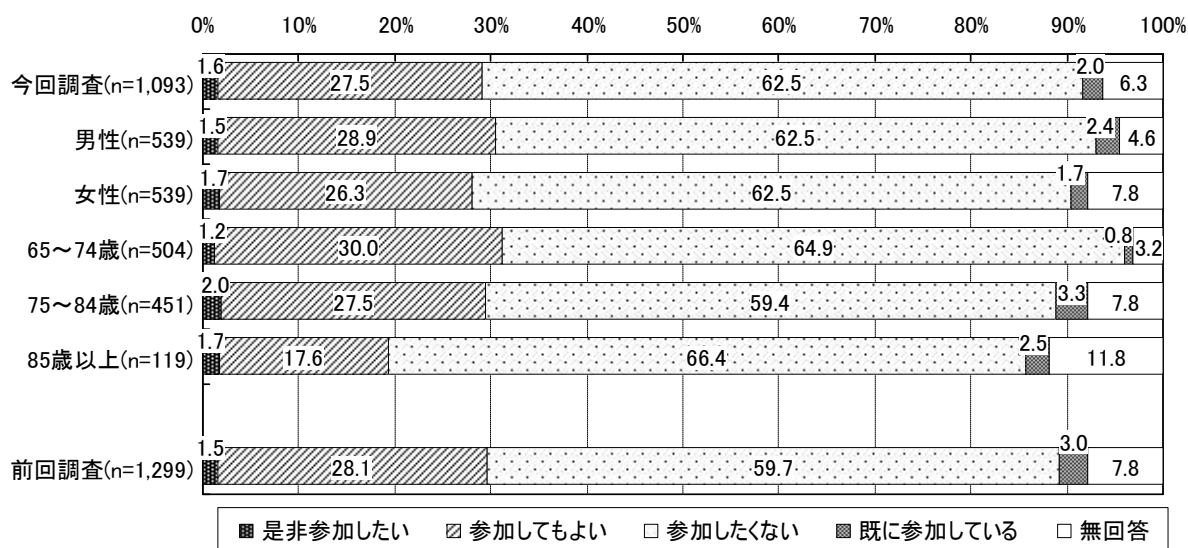
○性別にみると、『参加者』としては女性が男性より多くみられますが、『お世話役』としては男性の方が多くなっています。年齢別には、65～74歳、75～84歳の差はほとんどなく、85歳以上になると参加意向が低下する傾向にあります。

○身近な地域の中のちょっとした取り組みから活動参加者の輪を徐々に広げていくようなアプローチが必要です。現在は参加意向が低い、「お世話役」としての参加者を増やしていき、住民による主体的な活動を育んでいくことが望まれます。

◆地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。



◆地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

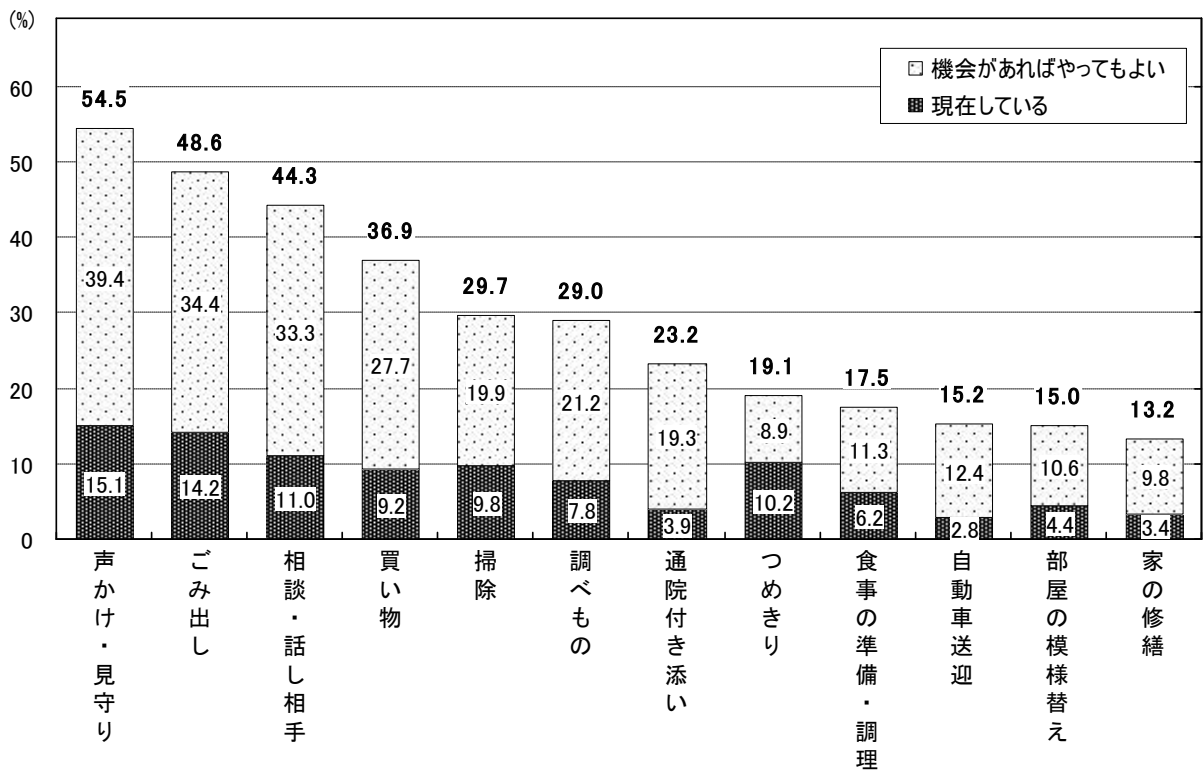


## たすけあいについて

○周りの人への手伝いの状況や今後の意向について尋ねたところ、設定した全12項目で「現在している」と答えた人が減っており、比較的行っている人が多いものは順に、声かけ・見守り（15.1%）、ごみ出し（14.2%）、相談・話し相手（11.0%）となっています。

○「機会があればやってもよい」と答えた人が多いものは順に、声かけ・見守り（39.4%）、ごみ出し（34.4%）、相談・話し相手（33.3%）、買い物（27.7%）、調べもの（21.2%）、通院付き添い（19.3%）、つめきり（19.1%）、食事の準備・調理（17.5%）、自動車送迎（15.2%）、部屋の模様替え（15.0%）、家の修繕（13.2%）となっています。

◆隣・近所などまわりの人に対してのお手伝いについてお答えください

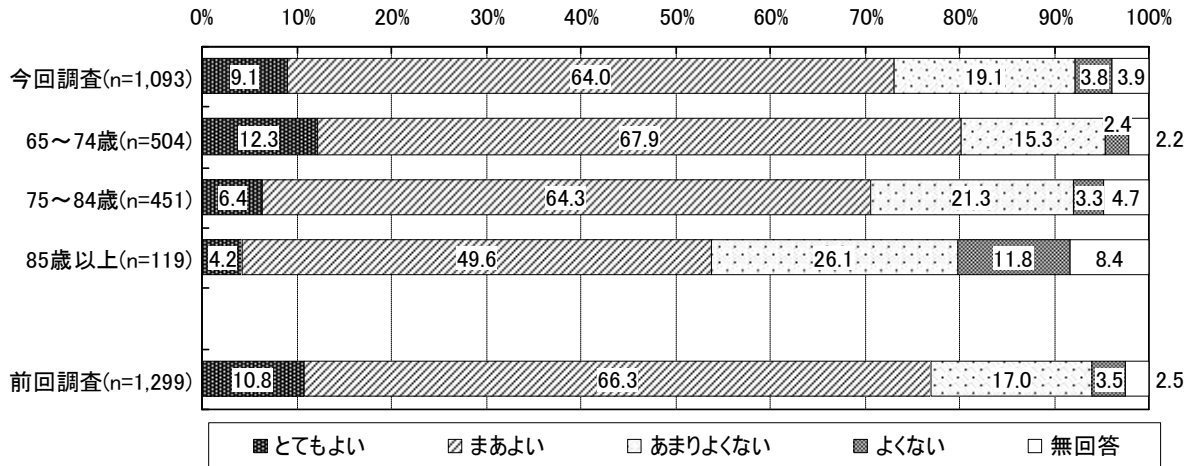


今回調査(n=1,093)

# 健康について

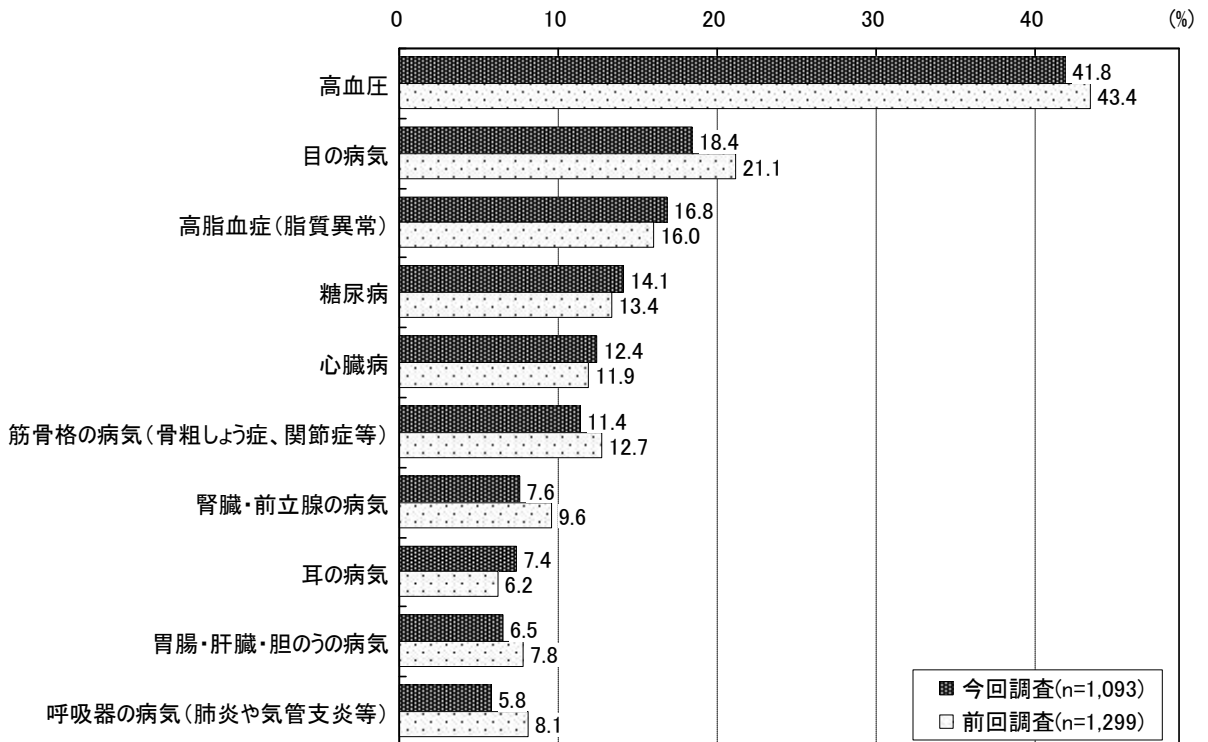
○現在の健康状態について尋ねたところ、「とてもよい」「まあよい」を合わせて73.1%の人がよいと答えています。

◆現在のあなたの健康状態はいかがですか



○治療中か後遺症のある病気を尋ねたところ、高血圧が41.8%と最も多く、次いで目の病気が18.4%、高脂血症が16.8%、糖尿病が14.1%、心臓病が12.4%、筋骨格の病気が11.4%の順となっています。

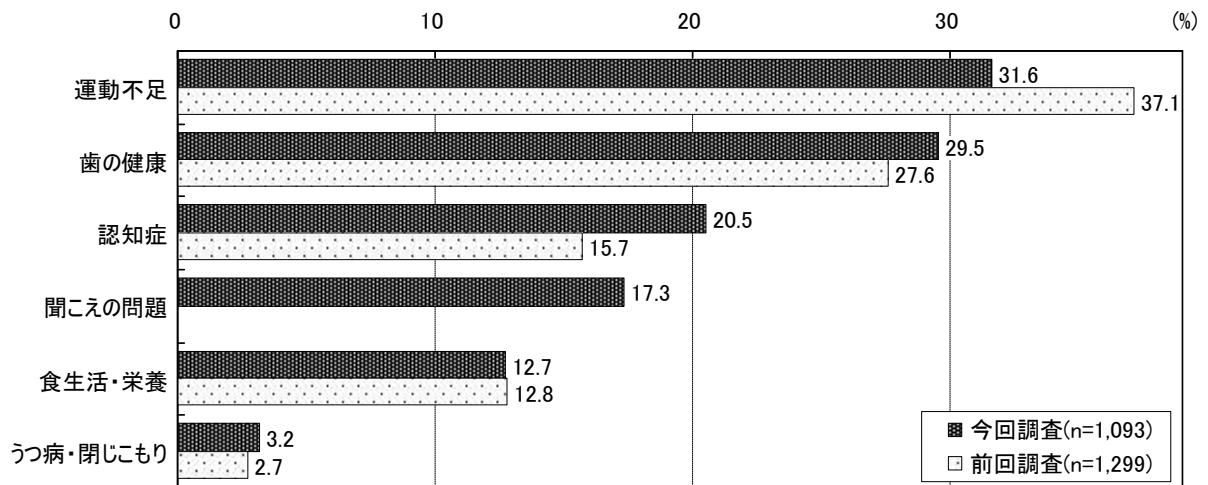
◆現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)。※上位10項目



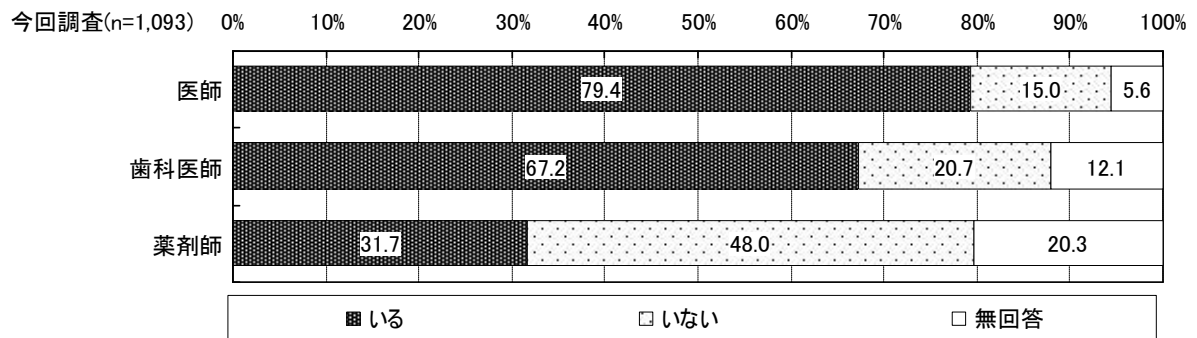
○健康について不安に感じていることを尋ねたところ、68.6%の人が何らかの不安を感じており、内容別には運動不足が31.6%、歯の健康が29.5%、認知症が20.5%、聞こえの問題が17.3%などとなっています。

○かかりつけの医師がいる人は79.4%、歯科医師は67.2%、薬剤師は31.7%で、それぞれ前回調査時より減っています。

◆健康について、不安に感じていることはありますか(いくつでも)。



◆普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談ができる、かかりつけの医師・歯科医師・薬剤師がいますか。





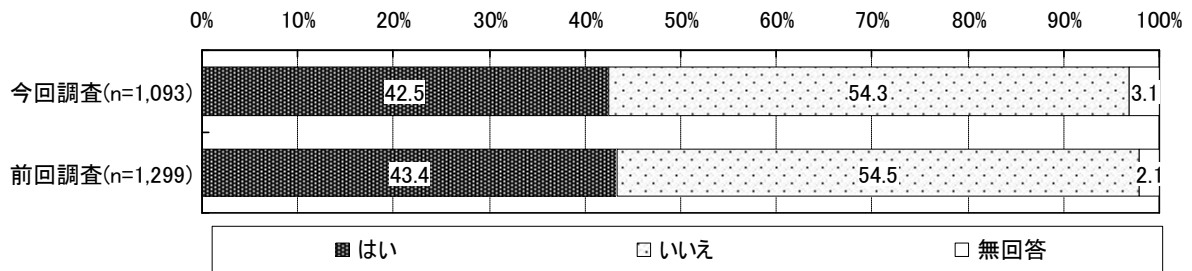
## 認知症について

○物忘れが多いと感じるなど、認知症の症状が疑われる人は、75歳以上になる時点で割合が高まる傾向にあります。

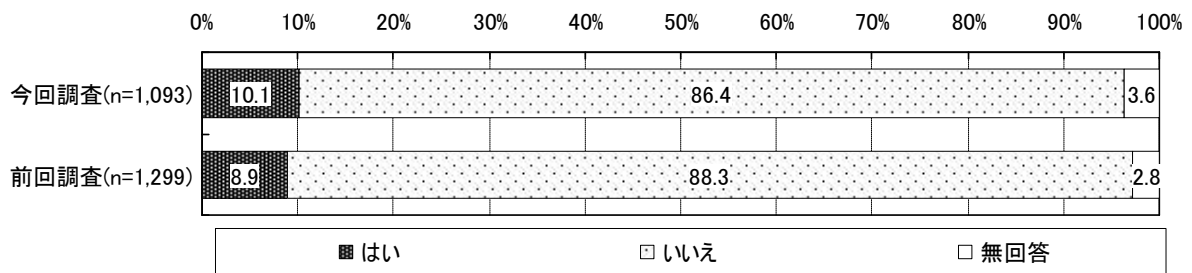
○本人か家族に認知症の症状がある人は10.1%となっています。

○認知症に関する相談窓口を知っている人は17.5%にとどまっていますが、認知症の症状のある人については42.7%が相談窓口を周知しています。

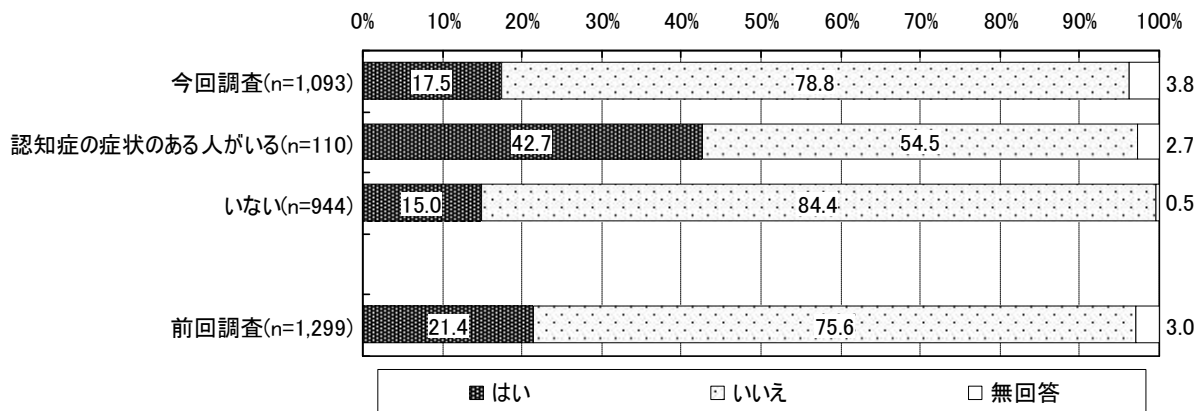
### ◆物忘れが多いと感じますか



### ◆認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか



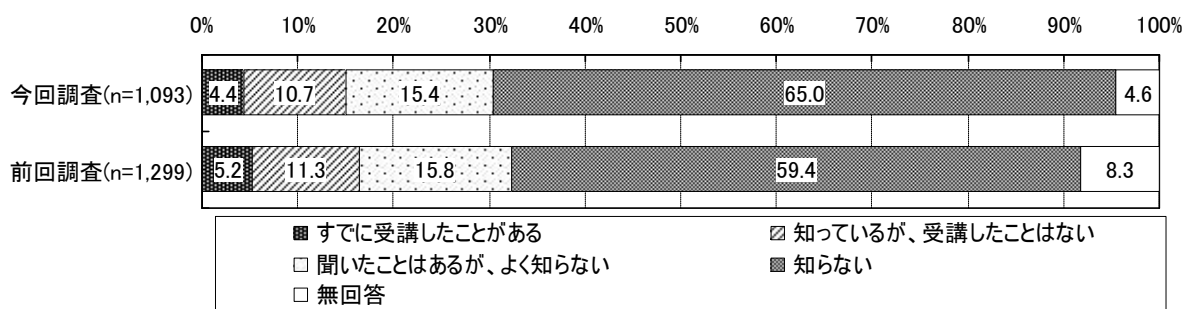
### ◆認知症に関する相談窓口を知っていますか



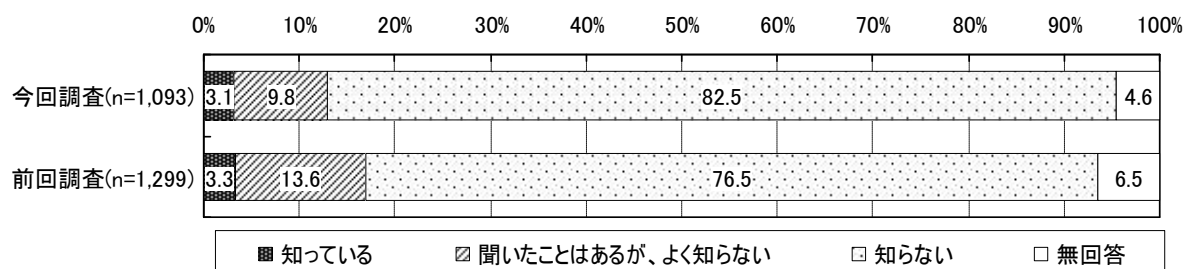
○認知症サポーターについて知っている人は15.1%、認知症ケアパスについて知っている人は3.1%にとどまっています。

○認知症の人が地域で生活するために必要なものを尋ねたところ、家族の介護が49.0%と最も多く、次いで病気についての理解が44.6%、介護者への支援が42.1%、施設の整備が36.0%、専門医の確保が33.2%、地域住民の協力が31.4%などとなっています。

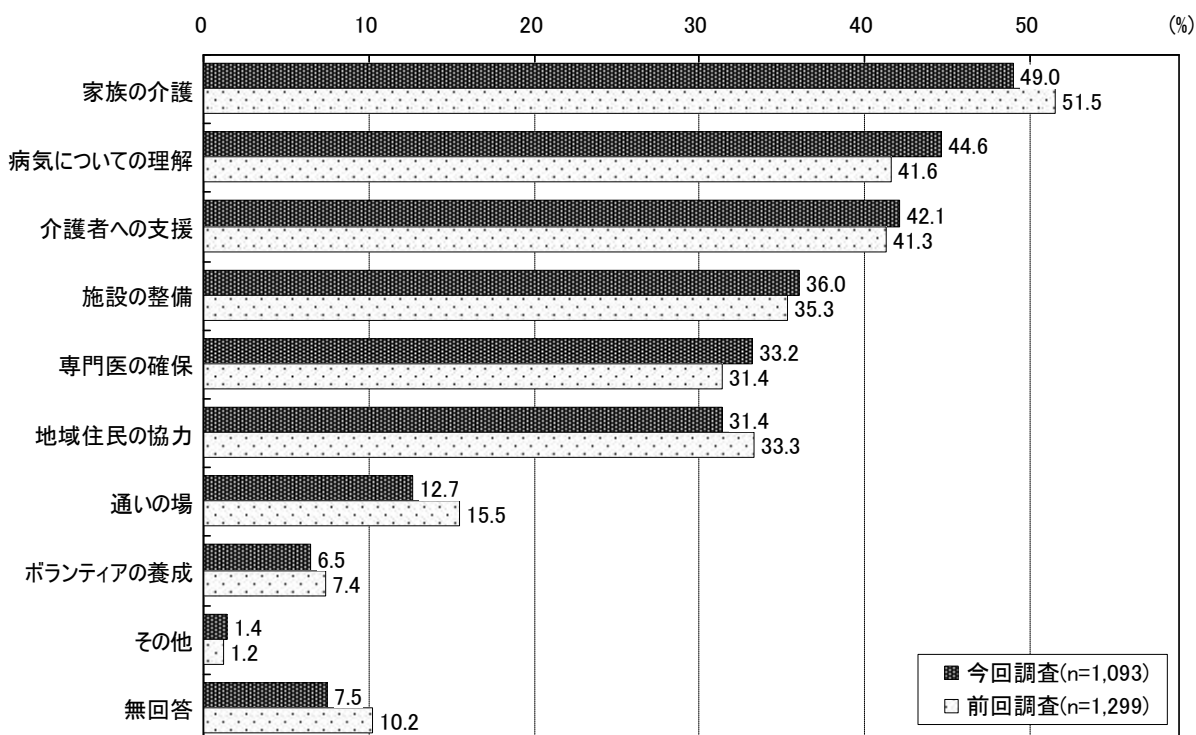
◆認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族の応援者で、認知症サポーター養成講座を受講した「認知症サポーター」をご存知ですか。



◆本市では、認知症が疑われる段階から「いつ」「どこで」「どのような」支援を受けることができるかをまとめた、認知症ケアパス(たかつきオレンジガイド)を作成していますが、ご存知ですか。



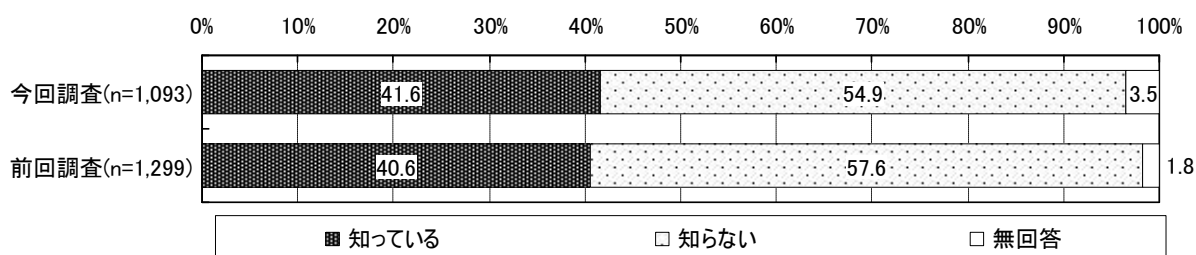
◆認知症の方が地域で生活するために必要なものは何だと思えますか(主なもの3つまで○)



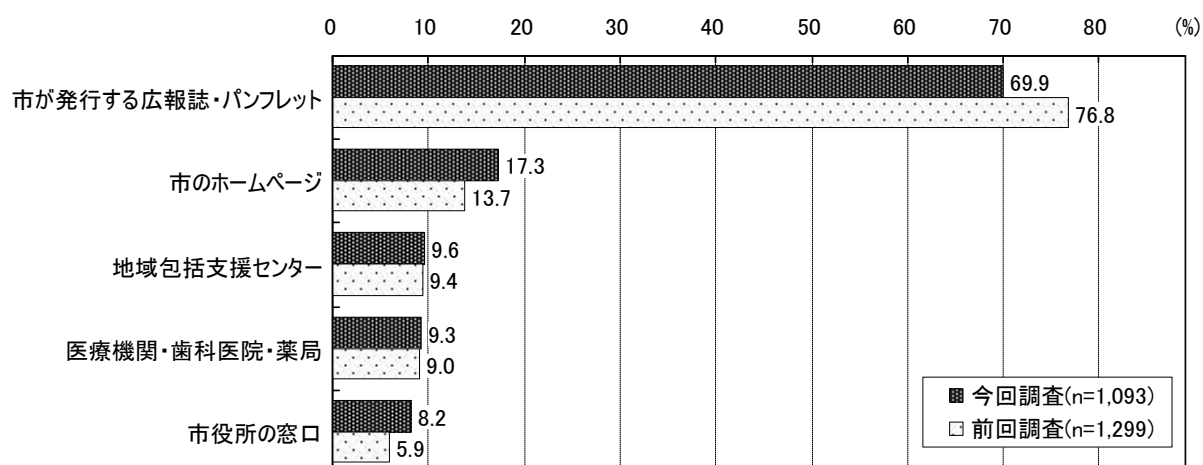
## 介護保険・高齢者福祉サービスについて

- 地域包括支援センターを知っている人は41.6%で、前回調査時と変わりありません。
- 高齢者向けサービスや施策の情報源は、市が発行する広報誌・パンフレットという人が69.9%を占めています。
- 可能な限り、在宅で生活したいと答える人が88.0%を占めています。

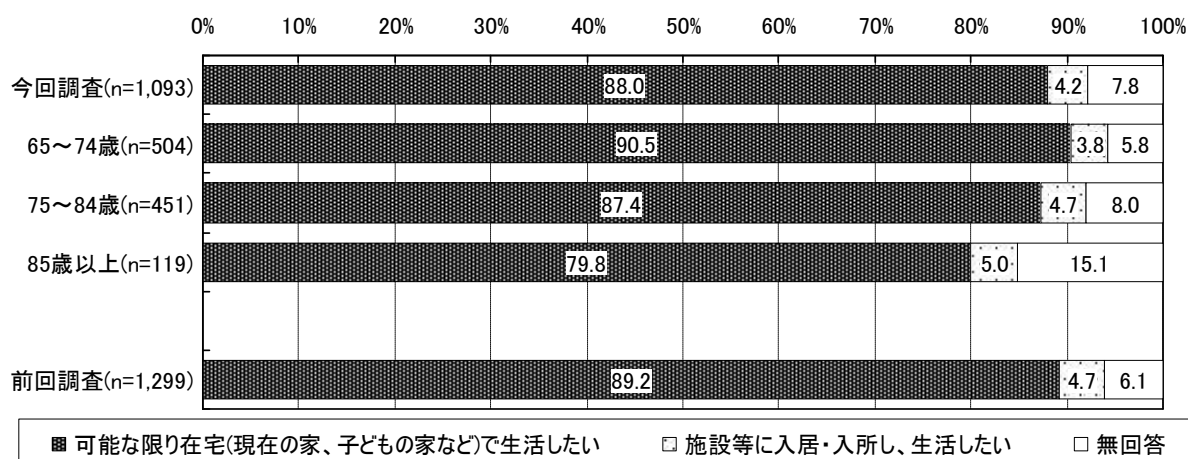
- ◆地域包括支援センター（介護や福祉に関して高齢者の方が気軽に利用できる地域の総合相談窓口）をご存知ですか



- ◆高槻市における高齢者向けのサービスや施策に関する情報をどこから得ておられますか（いくつでも）。※上位5項目



- ◆今後のお住まい等についてお尋ねします。

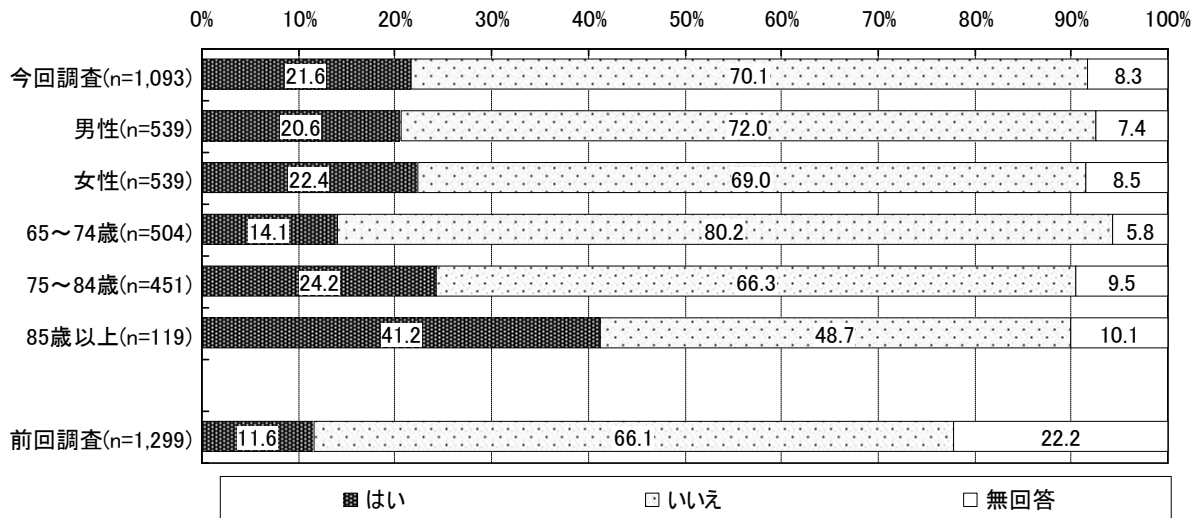


## その他

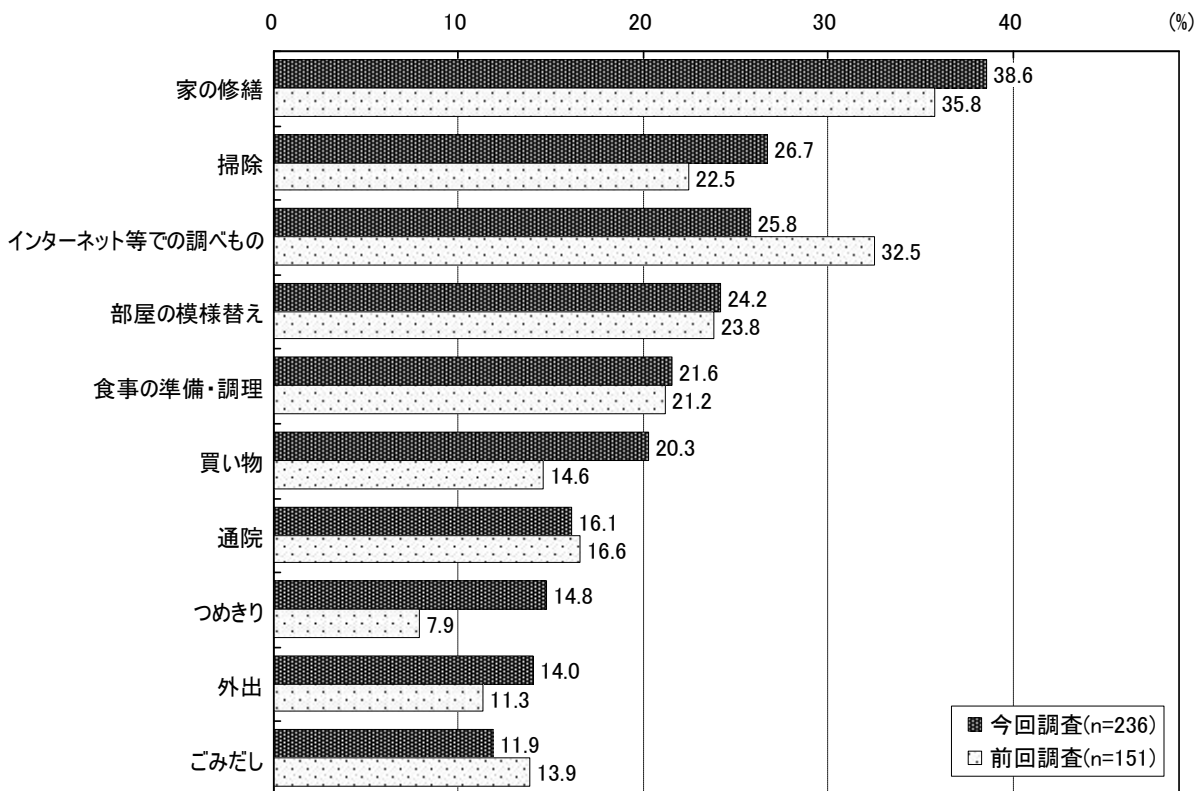
○日常生活で困っていることがある人は21.6%で、年齢が高くなるほど困っている人が多くなり、前回調査時と比べても増加しています。

○困っている内容は多い順に、家の修繕、掃除、インターネット等の調べもの、部屋の模様替え、食事の準備・調理、買い物などとなっています。

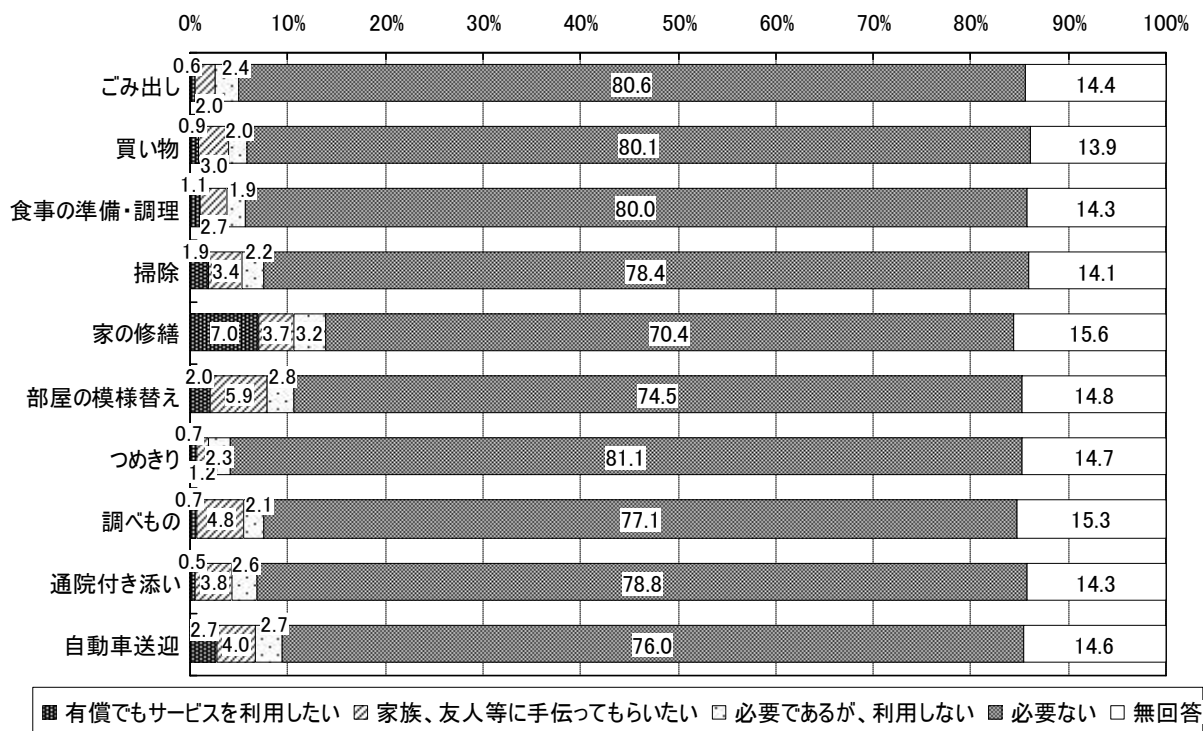
### ◆日常生活について、困っていることはありますか。



### ◆日常生活で困っていること※上位10項目

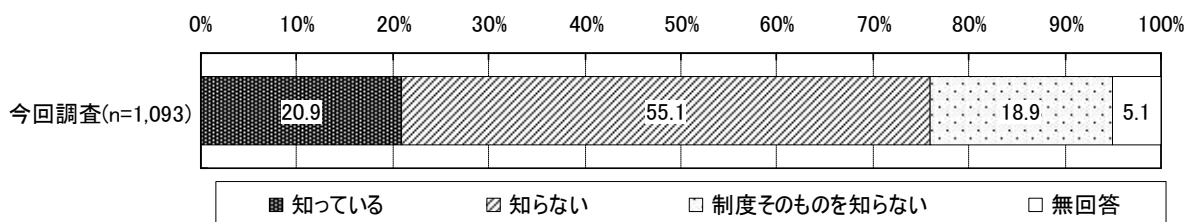


◆以下の項目についてお手伝いを必要としていますか。

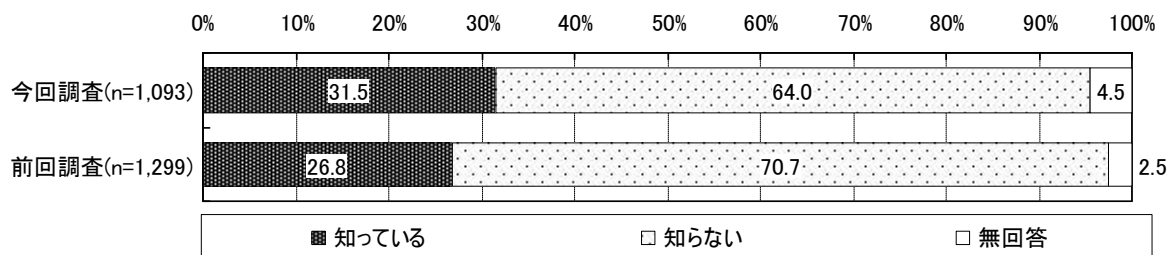


○成年後見人制度に関する相談窓口を知っている人は20.9%になっています。  
 ○高齢者虐待を見かけた際の通報義務について知っている人は31.5%となっており、前回調査時より増えています。

◆成年後見人制度に関する相談窓口を知っていますか。

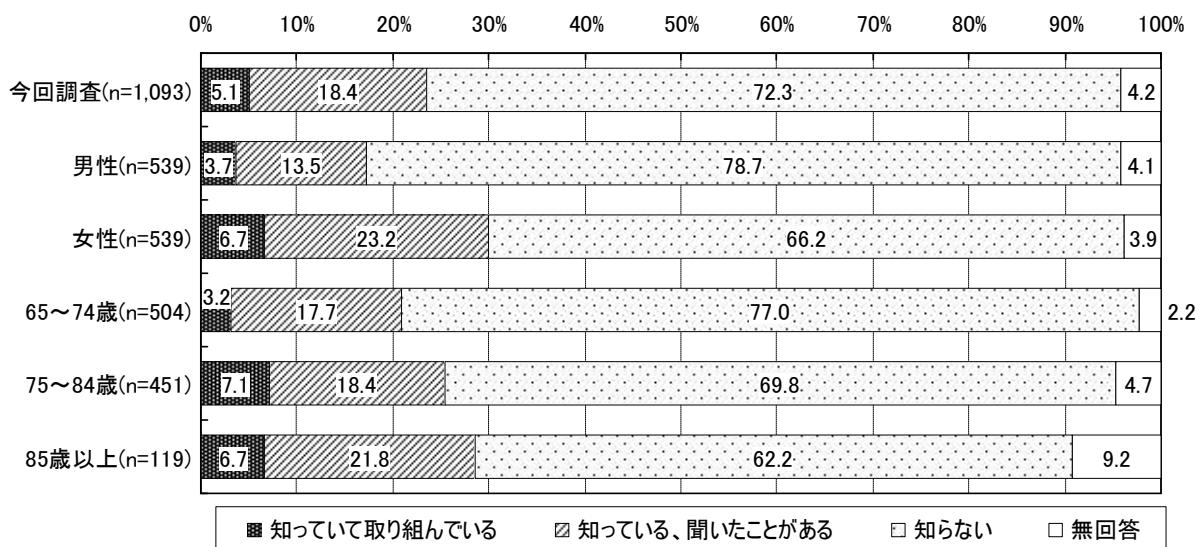


◆高齢者の虐待を見かけた場合、市役所に通報（相談）するよう努める義務がありますが、ご存知ですか。

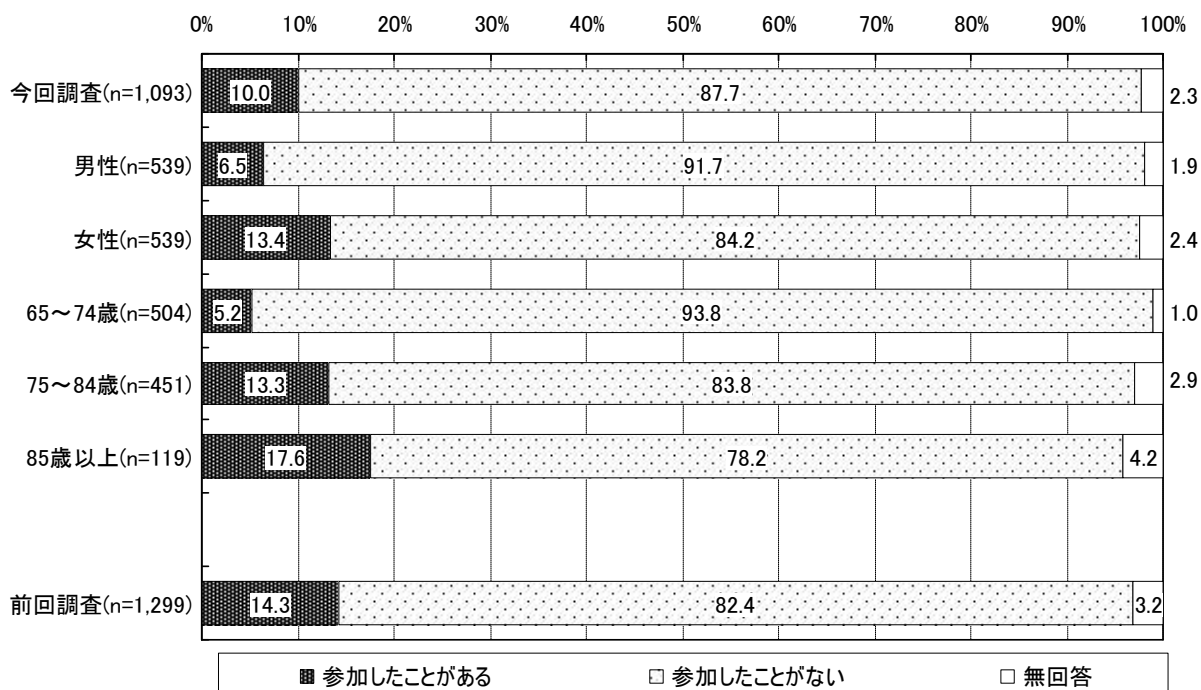


- 「もてもて筋力アップ体操」を知っている人は23.5%、介護予防事業に参加したことがある人は10.0%で、男性や年齢の若い人で知らないと答える人が多くみられます。
- 参加したいと思う介護予防事業については、体力づくりが37.4%と最も多く、食生活・栄養や認知症、ますます元気体操の実践、もてもて筋力アップ体操の実践などの順となっています。

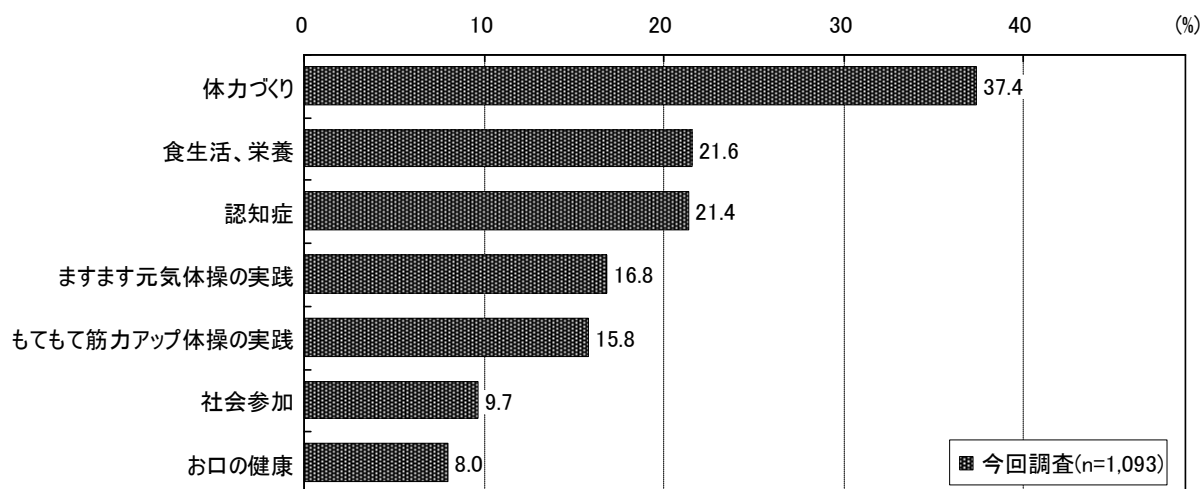
◆「もてもて筋力アップ体操」を知っていますか。



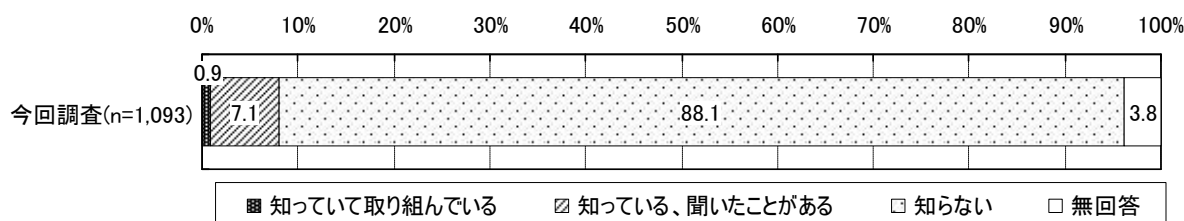
◆介護予防事業(ますます元気体操/もてもて筋力アップ体操等)に参加したことはありますか。



◆今後、介護予防事業についてどのような内容のプログラムがあれば参加したいですか（いくつでも）



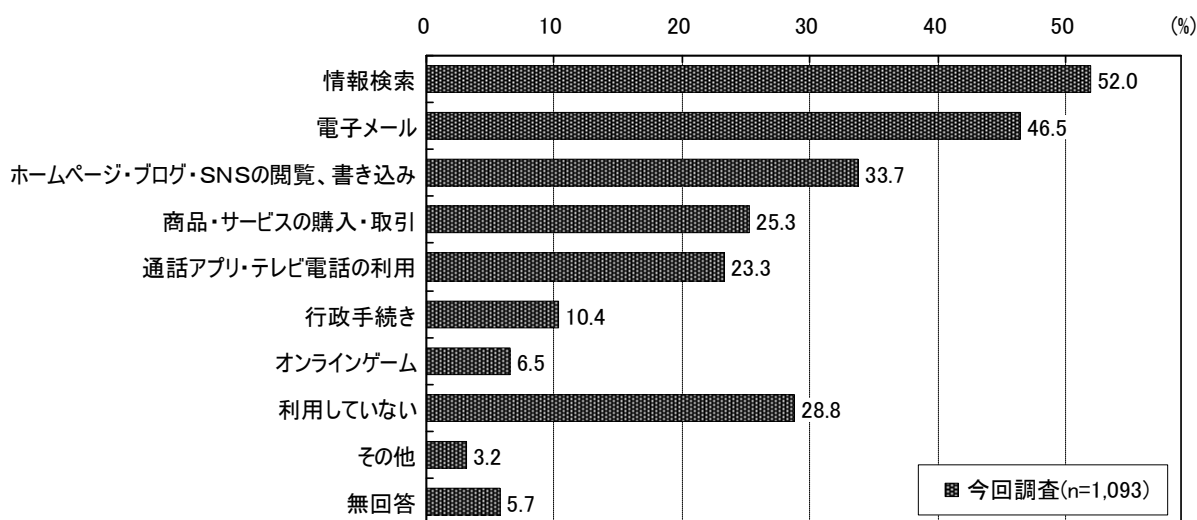
◆「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」を知っていますか。



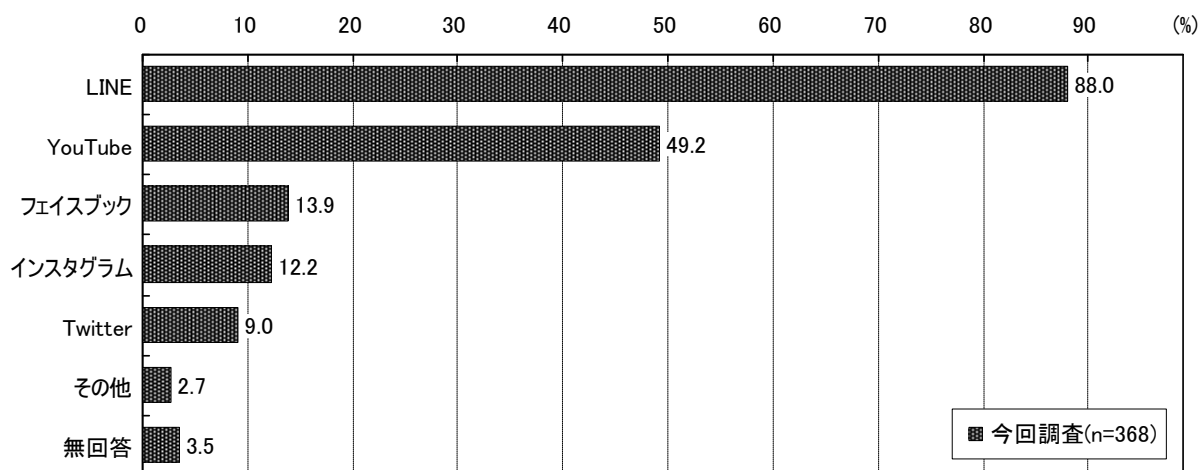
○インターネットの利用目的を尋ねたところ、情報検索が52.0%、電子メールが46.5%、ホームページ・ブログ・SNSの閲覧・書き込みが33.7%、商品・サービスの購入・取引が25.3%、通話アプリ・テレビ電話の利用が23.3%となっています。

○SNSの閲覧・書き込みの際に利用しているSNSはLINEが最も多くみられます。

◆インターネット（パソコン・スマホ）の利用目的は何ですか（いくつでも）



◆ご利用されているSNSは何ですか（いくつでも）



○今後の生活で重要視することを尋ねたところ、医療に関することが62.4%と最も多く、次いで介護に関することが44.6%、住まいが26.5%の順となっています。このうち介護に関することは年齢が高くなるほど、住まいは年齢が若くなるほど多くみられます。

◆今後の生活について、自分らしくはつらつと過ごすために重要と思うことは何ですか（いくつでも）。

